



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. 9

2017.12.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：ユネスコスクール訪問/ESD国際シンポ/ユネスコスクール豊橋大会/ESD全国フォーラム

11月10日・13日ユネスコスクールにフランスから研究者が視察に訪れました

フランスから Jourdan 教授が信州ESDコンソーシアムの紹介によりユネスコスクールである山ノ内南小学校と長野市の文化学園中高等学校を訪問しました。氏はブレーズ・パスカル大学・教育大学院教授で現在、ユネスコのグローバル・スクール・ヘルス・コンソーシアムのメンバーでもあり、ユネスコESD活動における環境と健康教育の融合の在り方について研究を進めています。



10日に山ノ内南小学校を訪問し、養護教諭の仕事内容などの聞き取りとESD活動である6年生の町子ども議会での発表練習を見学した。高齢者との交流活動をもとに、地域の高齢化について考え、若者が高齢者と交流することができる企画をPPを使って提案していました。13日は文化学園を訪問し、中学生の3Rの発表や英語での長野の紹介などの授業見学の後、Jourdan教授からフランスの学校制度とESDの紹介があり、生徒は興味深く聞いた。生徒へのコメントとしては批判的精神や生徒間のアライアンスを強調していたのが印象的でした。

11月11・12日国際シンポジウムに参加しました

立教大学池袋キャンパスで開催された国際シンポジウム「ESDによる地域創生の可能性と今後の展開」に参加しました。国内外の話題提供者から多くの事例紹介がなされ、約40名の参加者がありました。ここで強調されていたのは、ESDには人づくりを通じた地方創生力がある、ということ。ESDは、



持続可能性に関わる、あらゆるテーマやステークホルダーをつなぐ装置であり、このために地方創生において重要なキーワードとすることができます。このことは、自然と人間活動が調和した持続可能な地域づくりのモデルとなるユネスコエコパークについても同様で、報告者からは「ESDがユネスコエコパークのドライバーである」との力強い発言も飛び出しました。とはいえ、その実践はまだプロセスの途中であり、客観的な評価は今後の課題です。ユネスコエコパークを活かしたESDを特色とする信州ESDコンソーシアムでも、その実践と成果の発信を目指していきたいと思えます。
(水谷瑞希)

11月15日山ノ内町で、「子ども議会」が行われました

子ども議会は全校がユネスコスクールである山ノ内町内の3小学校の6年生全員が参加する行事で、子どもたちの視点から将来のまちづくりについて町に意見・提言するもので、地域学習を主体とするESDのまとめの機会としても位置づけられています。議会では子どもたちから、環境保全や観光振興、福祉施策など様々なテーマについて提言がなされ、実際の体験や主体的な学びにもとづいた具体的な提案には大人顔負けの説得力が



ありました。このような「子ども議会」は近隣の複数の市町村でも行われており、自治体側が実際にその提言を検討し、実現した例もあります。今後は山ノ内町でも、提言に対して町側から答弁するだけでなく、提言を町政に反映させるよう具体的な検討を行ったり、あるいは子どもたちが主体的に参画できるような活動に結びつけたりといった、実践に向けた発展が進むことを期待しています。（水谷瑞希）

11月24・25日ESD推進全国ネットワークフォーラムに参加しました

立教大学で2日間にわたって延べ240名の参加者あり盛況でした。また、各支援センターやコンソーシアム、NPOなどからの報告書も多数提供、配布されていました。初日は、①地域でのESD展開の紹介、②各地センター・団体の紹介ポスターでの自由交流、③関係省庁(文科省、外務省、消費者庁、環境省)の施策紹介、そして軽食の懇親会でした。①では長野にいらしていただいた大牟田市教育長の安田さんが発表で、教員研修などについてはやや詳しく紹介されました。③で文科省は専らユネスコスクールとSDGs、外務省はODAでのカンボジア・ベトナムでのESD支援、消費者庁はエシカル消費、環境省は支援センターやモデル事例、環境教育等促進法について紹介しました。懇親会では環境教育学会のメンバーも多く見受けました。2日目は4分科会があり、私は「地域と学校をつなぐ」に参加、ここでは北海道の石狩市環境部の海浜保護センターの活動と板橋区成増小学校でのボランティアコーディネーターによる多彩な学校支援が紹介されました。後者では市民200名以上が支援にかかわっており今後は予算化もされる予定とのことで長野県でも参考になる事例でした。まさに全国でのESDの状況と課題とが俎上にのった大きな集会となりましたが、主題であったESD支援センターへの要望などはあまりに多様で具体化しなかったように感じました。また信州ESDコンソーシアムのパンフなどPRせずに残念でした。（渡辺隆一）



12月2・3日第9回ユネスコスクール全国大会に参加しました

大牟田市で開催された本大会は913名と過去最高の参加者数であった。信州ESDコンソーシアムはブース展示とESD通信などの資料配布を行い、長野からはユネスコスクール教員など17名が参加し以下のような大きな成果が得られました。

高等学校

成果は二点。一は「SDGs」からESD活動の広さを再確認でき、新しい視点を得ることができた。二は他校の実践例から「まとめ」に力を入れる必要性を再確認できたことだ。今後の取組みは、一はまとめの時間の確保と参加生徒の幅を広くすること。二は教員側の意識の統一の徹底で、多くの教員が関わるよう工夫すること。

中学校

「ESDの授業を始めて参観できた」ことで、ESDの授業のあり方、目指す生徒の姿が理解できた。これによって、本校のESDに対する自信が持てた。教員間での共通理解等の新たな課題も見え、ESDを推進していく勇気を持つことにつながった。SDGsに照らし合わせて職員研修を行い、先生方のSDGsをつなぎ合わせることで、ESDカレンダーづくりになるのではないかと考えている。年1回の交流ではなく、生徒が主体的に日常的な交流ができるシステムづくりを考えたい。

小学校

すべてのプログラムにおいて、ユネスコスクールの役割、新学習指導要領とESDの関係、学校教育だけではなく、様々な立場の人がともに学び合い、つながることでSDGsの17の目標にせまっていくということが確認できた。ホールスクールアプローチの重要性や、教職員、保護者、地域の理解を得ることの必要性、ESDを研究の窓口とすることの難しさなどを語り合い、有意義な時間を過ごすことができた。今後は、カリキュラムマネジメントを大事に考え、ESDカレンダーを充実させたい。

吉野小学校の授業参観からは、一年間の活動の見通しを課題設定・行動・発信・振り返りとしたストーリーマップ(単元計画)の実例を提示してもらった。学校全体でESD学習を進めていくことで学年学級が一つの方向に向かってPTA・地域・諸団体と協力しながら学習が成り立っている様子がよく感じられた。ESDをよりいっそう推進することが「誰一人取り残さない」社会の実現のための持続可能な開発目標(SDGs)17の目標達成に直接・間接に貢献することが理解できた。急激な変化を遂げるこれからの社会を生き抜くために、ネガティブ思考ではなくポジティブ思考ができる子どもたちに育てたい、というディスカッションが印象に残った。

このように非常に大きな成果と今後への意欲を強めることのできた大会であり、県内ユネスコスクールの今後にも大いに役立つ大会であった。



ESD小辞典 エシカル消費とは

私たちは日々、何かしら消費をして生きています。食料、洋服、エネルギーなど1日の生活を振り返ってみても、多くのモノを消費しています。では、それらが誰の手によって、どこで、どのように作られたか、考えたことはあるでしょうか?自分で意識的に調べない限り、それを知ることはありません。けれども、私たちが消費しているモノの生産背景を知ることは、とても大事なことです。なぜなら、それが世界中で今緊急課題とされている、「貧困問題」、「人権問題」、「気候変動」を解決するための、大事なきっかけとなるからです。

11月11日に、持続可能な社会の構築を目指しているNPO法人みどりの市民は、エシカル消費(倫理的・道義的消費)を広めようと、ワークショップ「このTシャツはどこからくるの?」を長野市のもんぜんぷら座で開催しました。講師は児童労働の問題に取り組む認定NPO法人「ACE」の田柳優子さん。参加者は短大生など18名でした。ワークは、講師のこんな問いかけから始まりました。「皆さんは自分の着ている服はどこで作られているか「タグ」を見たことありますか?」。回答は「インド」「バングラディッシュ」「チャイナ」などアジアの様々な国です。参加者は、綿が服になるまでの流通の過程で、綿の栽培に従事する女児とその母親、縫製会社やアパレル会社の社員、消費者(OL)の視点に立って、問題点や課題などを考えました。講師の田柳さんは、綿の生産地インドの児童労働の背景には、「貧困や教育への意識の低さ、加えて商品の価格の低さにより、正当な賃金が支払われない」という現実があると指摘されました。児童労働の実態を改善するために、私たちは何ができるかのワークでは、参加者から「フェアトレードの商品を買う」「エシカルについて学び、広める」「ACEの活動を応援する」などの提案がされました。このワークを通して、私たちの暮らしは世界と繋がっていること。私たちが日常的に買う商品の裏側に何があるのかについて深く考え学ぶことができました。田柳さんの「フェアトレードは買える時に買しましょう。プレッシャーに感じないように」の言葉に「できることからより多くの人に広めよう」という思いを強くしました。

